

第13回気候変動適応中部広域協議会  
議事録

日時：令和7年2月13日(木) 13:00～15:30

方法：オンライン会議 (Microsoft Teams)

参加者：末尾に記載

議事次第

1. 開会挨拶

2. 議事等

(1) 気候変動適応中部広域協議会設置要綱の改正について（構成員の変更等）について

(2) 分科会等からの報告

- ① 自然生態系への影響分科会
- ② 流域圏での水資源管理分科会
- ③ 普及啓発事業
- ④ 講評

3. 情報提供

(1) 岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課からの情報提供

(岐阜県気候変動適応センターにおける農業分野の取組について)

(2) みよし市からの情報提供（気候変動適応計画の策定について）

(3) アート金属工業株式会社からの情報提供（気候変動適応の取組みについて）

(4) 独立行政法人環境再生保全機構からの情報提供（熱中症施策の先進事例等について）

(5) 東京管区气象台からの情報提供（「日本の気候変動 2025」の公表について）

4. 今後の予定について

5. 質疑・意見交換

6. 閉会挨拶

資料：

- 資料 1 気候変動適応広域協議会設置要綱
- 資料 2 分科会等からの報告
- 資料 3 岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課からの情報提供資料
- 資料 4 みよし市からの情報提供資料
- 資料 5 アート金属工業株式会社からの情報提供資料
- 資料 6 独立行政法人環境再生保全機構からの情報提供資料
- 資料 7 今後の予定について
- 参考資料 1 第 13 回気候変動適応中部広域協議会参加者名簿
- 参考資料 2 気候変動適応における広域アクションプラン  
(気候変動による自然環境・生物への影響に対する対応)
- 参考資料 3 気候変動適応における広域アクションプラン  
(気候変動下における持続可能な流域での水資源管理方法の検討)
- 参考資料 4 分野横断的な脆弱性・リスクの抽出を行うための地方公共団体向け  
ワークショップの手引き

<はじめに>

【中部環境事務所挨拶：小森所長】

- ・ 広域協議会で数回ご挨拶しているが、毎回暑い夏の話させていただいている。今年1月の気象庁の発表によると、2024年の日本の平均気温の基準値からの偏差が、+1.48℃となっており、観測史上最も暑い夏であった。世界をみると、世界気象機関WMOの発表では、地球全体の平均気温も、産業革命前と比べ、1.55℃上昇したというデータもある。夏の暑さだけでなく、地球全体の気温上昇は、私たちの身近な生活に直接的な影響を与えるようになっており、気候危機が深まっているように感じる。
- ・ 一昨年や昨年の猛暑により、熱中症に対する被害は年々増加している。厚生労働省によると、2023年の熱中症による死亡者数は1,651人であった。また、昨年の熱中症による緊急搬送者数は累計97,578人にのぼり、健康被害に加え気温上昇による自然生態系や農作物にも大きな影響が出ているとニュースを頻繁にみる。適応対策は、今後さらに重要な課題となり、広域協議会の役割も益々重くなると考えられる。
- ・ 環境省本省や政府全体の動きとしては、中央環境審議会の気候変動影響評価・適応小委員で気候変動影響評価報告書をまとめているところである。この報告書は、令和7年度に作られ、それを踏まえて気候変動適応計画の変更も予定しており、新たな適応の動きが、この1、2年で明確に方向付けられると思う。
- ・ 中部地方としては、これまで5年間、自然生態系への影響分科会では、東京大学の香坂先生に座長としてご尽力いただき、気候変動による自然生態系への影響分析や市民参加型の広域モニタリング調査などに取り組んだ。また、流域圏での水資源管理分科会では、岐阜大学の原田先生に座長になっていただき、日本海側と太平洋側の二つの流域で連携の実現に向けた検討を行った。両分科会とも今年度までに一定の成果を上げた。
- ・ 今後の分科会の体制や事業については、適応対策や計画の見直しなど、転換期に入っているため、本省の動きを見つつ、皆さまのご意見を伺いながら、新たな展開に向けて、検討を開始したい。具体的には、色々と意見を聞いた上で考えていくが、分科会等で検討してきたことを含めて、科学的知見の共有をどのようにバージョンアップを図るのか、適応ビジネスなどの新たな課題も徐々に重要になる中で視野をどう広げていくのか、あるいは、市民や企業、農業生産者等、様々な方が気候変動による被害や影響を受ける中で、様々な声を把握し、モデル的に広域連携の場で取組を少しずつ始めたいと考えている。この点については、議題を立てて、意見交換をさせていただきたい。
- ・ 各分科会の報告とともに、岐阜県、みよし市、環境再生保全機構、東京管区气象台から情報提供をいただく。また、気候変動適応をピンチからチャンスへと捉えるチャレンジングな事例として、長野県上田市のアート金属工業様にお越しいただき、コーヒー豆の栽培に関する取組も紹介いただく。様々な可能性やチャンスが生まれる可能性があるため、今後適応対策をどのように進めていくのかを考えるきっかけになると良い。
- ・ 最後に、緩和と適応をつないで気候変動対策全体を考えることが、今後より重要にな

る。緩和については、地球温暖化対策計画の案、エネルギー基本計画の案、グリーンランジション 2040 の案の作成が進んでいる。現在、2030 年の目標はあるが、2050 年ネットゼロに向けて、2035 年、そして 2040 年の目標が決まり、国際的に公約されていくと思う。政府としては、オントラックで CO<sub>2</sub> と温室効果ガスを削減しているのだから、ぶれることなく継続していくことが重要になる。

- ・ 緩和と適応をつなぐということは、具体化に向けて様々な側面がある。例えば、中部地方環境事務所としては、3月4日に名古屋市で、環境スタートアップの企業を育てるためのセミナーを、愛知県及び経済産業省中部経済産業局と連携し開催を予定している。脱炭素やサーキュラーエコノミーなど、将来的な適応ビジネスをチャレンジしていただくことを期待して、色々な取組の紹介を行い、支援策について金融機関や行政などについてお話す。興味のある方はご参加いただきたい。
- ・ 国や地方公共団体、市場、企業、国民、NGO など様々な主体が、新しい未来の希望のある社会に向けて、共に進んでいくことが重要である。

#### 【座長挨拶：福井先生】

- ・ 気候危機が本格化しており、科学的な知見あるいはデータに基づいた総合的な取り組みが益々必要になる。部局を超えた取組、あるいは様々な主体が総合的な視点から、一緒に協力して取り組むことが、今後益々重要になる。本会では、分科会からの報告を受けながら新しい技術などをベースにして、来年度以降、それぞれの地域でどのような取組ができるか検討できると良い。

#### 【副座長挨拶：杉山先生】

- ・ 適応策が益々重要となる中で、個々の取組だけでなく、都市構造やまちづくり、エネルギー、自然資源、地域の生活や文化、生業なども総合的、長期的に考え、緩和策にも効果があるコベネフィット、もしくは他の地域課題も解決できるようなマルチベネフィットな施策を地域で進めていく必要があると思う。広域協議会の場合、情報や認識を共有、アップデートする場になると良い。

<議事 2 (1) 気候変動適応中部広域協議会設置要綱の改正について (構成員の変更等) について>

#### 【資料説明】

事務局 (中部地方環境事務所) より「資料 1 気候変動適応広域協議会設置要綱」について説明した。

#### 【質疑応答】

議事 1 の説明に対して、質疑なし。

<議事2(2)分科会等からの報告 ①自然生態系への影響分科会>

【資料説明】

事務局（アルパック）より「資料2 分科会等からの報告」について説明をした。

【分科会座長コメント：香坂先生】

- ・ 5年間活動してきたが、当初はクマの出没がニュースになっていなかったが、この5年間で大きな関心と呼ぶテーマとなった。元々はこういうものが自走することを目標に活動していたため、今後は民間の適応策ビジネスも巻き込みながら活動していくことが重要になる。水谷先生には大変なご尽力をいただいた。
- ・ セミの市民参加型調査では、継続してデータを同じ地点から取ることの難しさや、いかに観察数を増やすのか、構成員の皆さまも苦心いただいて、着実に進めていくことができた。今後は広域協議会に入る形になるが、そこで積極的な情報交換をいただいて、発展的に継続していくことができると良い。

【分科会副座長コメント：高取先生】

- ・ 5年間をかけて、広域における気候変動適応策に資する指標を、いかに設定するのかという議論から始まり、まずは皆さまの合意の下で、市民啓蒙も込めて、気候変動に対する意識を高めることを目的に、セミの市民参加型モニタリング調査を実施した。
- ・ 当時は世間で大きな注目されていなかったツキノワグマについて、県や市町村界を跨ぐ広域で把握することが今後求められる。植生と動物との関係性、生息域の分布の変化をモニタリングするために、構成員の皆さま、学識の先生方にも協力いただきながらデータを積み上げてきた結果がある。
- ・ この結果を今後も継続し、次のステップとして、適応策に向けて傾向が見えてきたところを、今後色々な専門家の方の知見などもいただき深めながら、人のプラットフォームで民間や学術が連携して、広域で対策を打っていく道筋を立てていくことが、今後できると良い。皆さまも今後も発展的に、人やデータのプラットフォームを生かしながら、これからの気候危機に対してどのように臨んでいくかについて、議論を深めていただきたい。

<議事2(2)分科会等からの報告 ②流域圏での水資源管理分科会>

【資料説明】

事務局（アルパック）より「資料2 分科会等からの報告」について説明をした。

【分科会副座長コメント：中村先生】

- ・ 5年間のうち、前半はアクションプランの策定、後半がアクションプランを使ったフォ

ローアップであった。特に、アクションプランについては、先進的な取組と自負している。水を対象にする際、水は高い方から低い方に流れており連続性がある。その連続性について、日常的に認識しないようなつながりで結ばれているということを気候変動適応の枠組みの中に見える化したことが大きな成果である。

- ・ このことが、前半の一番大きな成果であり、水のつながりの見える化を基に、既存の流域協議会や既存の枠組み等を使い連携しながら、気候変動適応の重要性をインプットしたことが後半の取組である。全体としては、原田先生のリーダーシップ、事務局や構成員の皆さまの協力の下、非常に有益な5年間であった。
- ・ 流域間の自治体の見える化はできたが、各自治体内のセクター間の横連携が今後の課題である。その点について、継続的にフォローアップ、もしくは意見交換等が必要だと感じる。

#### <議事2(2)分科会等からの報告 ③普及啓発事業>

##### 【資料説明】

事務局（アルパック）より「資料2 分科会等からの報告」について説明をした。

##### 【質疑・意見交換】

###### 福井先生

- ・ 説明に対するご意見・ご質問はいかがか。
- ・ 質問を考えていただく間に、生態系の影響分科会で中部地方の堅果類の豊凶やクマの出没傾向について分析された水谷先生に総括をお願いしたい。

###### 水谷先生

- ・ 自然生態系への影響分科会において、ツキノワグマの出没とドングリの豊凶の関係をテーマに有識者として参画した。
- ・ クマ出没やドングリの豊凶については、気候変動として注目されるテーマではないが、自治体のニーズアンケート調査で多くの要望があったことがきっかけだと聞いている。中部地域を含む色々な場所で、クマの出没が多発し、行政として対応が重要な課題になっていたことが考えられる。しかし、クマの出没が大きな社会問題となる年には、関心が高まっている一方、出没が目立たない年には、あまり注目されない。例えば、一昨年の秋は大きな話題となったが、昨年の秋は一部の県を除きほとんど話題になっていなかった。そのような年を含め、情報を継続的に集め、整理しておかなければ、クマの大量出没という異常事態を予測することはできない。
- ・ モニタリングは、通常の状態を把握することで、変化や異常があった時に捉えることができるため、継続的な情報収集が重要である。このことは、気候変動に関連する中長期的な課題に共通するものと考えており、今後もモニタリングの重要性や価値を共有し

ながら実践していきたい。

#### 福井先生

- ・ 科学的なデータを集め、それに基づいた効果的な施策を打っていく上で、重要な調査をされている。
- ・ 全体の説明を受けてご質問やご意見があればお願いしたい。
- ・ 副座長の杉山先生にコメントをいただきたい。

#### 杉山先生

- ・ 5年間にわたって情報収集や研究されてきた取組が深化したように感じる。
- ・ 先ほど中村先生が総評されていたように、自治体同士で見える化し、つながりを明らかにしたことは素晴らしいと思う。一方、自治体の気候変動のプロジェクトに関わっているが、自治体内の横連携が大きな課題と感じる。その点を今後、横断的に行わないと適応策を地域で進めていくことは難しい。そのことを具体的に実装する方法を、今後探る必要があるように感じる。

#### 香坂先生

- ・ 普及啓発について、セミの市民モニタリング調査の知見があるため、双方向のワークショップの実施とともに、親子で参加できるタイミングを作るなど、広く共有いただきたい。
- ・ 自治体内のセクター間の連携や民間のビジネスのつながりについて、今後、広域協議会の場で意見交換や、オブザーバーとしてビジネスの方に参加していただけると良い。

#### 福井先生

- ・ 官民連携や役割分担、今後全員参加で取り組むためには、非常に重要になる。
- ・ その他、何かご発言はあるか。

#### 中村先生

- ・ 自然生態系への影響分科会について、今まで想定していなかったような気候変動の影響が現れた際に、今回のクマの出没状況は、分科会で行っていたため臨機応変に反応ができたと感じる。今後、分科会が一緒になった際に、気候変動による変化が現れ始めていることについて情報共有することが、重要になるということを本日の報告を聞いて改めて感じた。

#### 福井先生

- ・ 来年度は分科会を締めて広域協議会に一本化されるため、情報共有を図る必要がある。

<議事3. 情報提供(1) 岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課からの情報提供(岐阜県気候変動適応センターにおける農業分野の取組について)>

【資料説明】

岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課 石橋様より「資料3 岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課からの情報提供資料」について説明をした。

<議事3. 情報提供(2) みよし市からの情報提供(気候変動適応計画の策定について)>

【資料説明】

みよし市 経営企画部 企画政策課 ゼロカーボン推進室 福上様より「みよし市からの情報提供資料」について説明をした。

<議事3. 情報提供(3) アート金属工業株式会社からの情報提供(気候変動適応の取組みについて)>

【資料説明】

アート金属工業株式会社 井出様より「資料5 アート金属工業株式会社からの情報提供資料」について説明をした。

<議事3. 情報提供(4) 独立行政法人環境再生保全機構からの情報提供(熱中症施策の先進事例等について)>

【資料説明】

独立行政法人環境再生保全機構 佐古様より「資料6 独立行政法人環境再生保全機構からの情報提供資料」について説明をした。

<議事3. 情報提供(5) 東京管区气象台からの情報提供(「日本の気候変動2025」の公表について)>

【資料説明】

東京管区气象台 中村様より「日本の気候変動2025」の公表について説明をした。

【質疑・意見交換】

**福井先生**

- ・ 情報提供について質問があればいただきたい。

**長野県環境保全研究所**

- ・ 岐阜県とみよし市に質問したい。
- ・ 岐阜県については、岐阜大学と連携して気候変動適応を進められており、非常に先進的な取組だと感じた。農業の気候変動影響の結果について、論文に出したものが適応策に

使われるのか、論文には出ていないが共同研究として成果があったものを、県として適応策としてどのように取り込んでいるのか、お聞きしたい。

- ・ みよし市については、気候変動適応計画策定にあたり、情報収集から始めたという話であったが、市内の気候状況や気候変動に対する影響を把握する際、国立環境研究所のA-PLAT など、様々な気候変動影響評価に関する情報を活用したかお聞きしたい。

#### 岐阜県

- ・ ご質問について、今回紹介したジャンボタニシのマニュアルについては論文掲載の有無について把握していない。論文への掲載の有無に関わらず、県の施策として活用できるものは活用している。ただし、岐阜大学の研究として、先に結果が公表されると問題となる可能性があるため、結果を公開するタイミングは先生方と調整して、公表の可否を決めている。

#### みよし市

- ・ 気候変動適応計画策定にあたり、環境省の計画策定マニュアルを参考にした。マニュアルの中に A-PLAT の情報は参考として載っていたが、計画を漠然と作るのではなく、市の地域特性に応じたものとして計画づくりを行った。その際、職員との対話の中でどのような取組を実施しているか把握するために A-PLAT の情報を活用した。

#### 長野県環境保全研究所

- ・ 県内の市町村の気候変動適応計画策定の技術的な支援を行っている。長野県では、大きな市が適応計画を策定している状況であるが、みよし市のような比較的面積の小さい市で適応計画を策定する際に、適応センターとしてどの程度情報を出せるのか不安であったため、どのような情報を参考にしたのかお聞きしたく質問した。

#### <議事4. 今後の予定について>

##### 【資料説明】

事務局（中部地方環境事務所）より「資料7 今後の予定について」の公表について説明をした。

##### 【質疑・意見交換】

#### 福井先生

- ・ 来年度の進め方について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いしたい。
- ・ 中部7県の各県の担当者からご意見をいただきたい。

## 富山県

- ・ これまで WEB ベースで会議が開催されていたため、交流会や勉強会など顔を合わせて行うことは良いと感じた。

## 福井県

- ・ 各機関の取組を参考にしながら、取組を進めていきたい。

## 長野県

- ・ 来年度から前向きな、ポジティブなという説明があり、次の段階に入ったように感じた。影響が出てきた分野も多くみられ、自治体が適応策を進めていくために、色々な知恵をいただきながら取り組んでいきたい。

## 岐阜県

- ・ 来年度から2つの分科会が、広域協議会に吸収合併され、勉強会など様々な活動があるとお聞きして、来年度も引き続き参加させていただきたいと思う。
- ・ 今まで分科会では、当課だけでなく、実際に活動している事業課も参加していただけなので、来年度も引き続き、担当課にも参加していただけるよう、声掛けしていきたいと思う。

## 愛知県

- ・ 分科会の報告や情報提供は大変参考になった。
- ・ 来年度から分科会の形が変わるが、今後も積極的に参加したい。

## 三重県

- ・ 来年度の見学会や交流会を楽しみにしている。引き続き積極的に参加したい。

## 福井先生

- ・ 来年度は、リアルでお会いして活発に勉強会などを重ね、実際に適応計画が進んでいくような体制が取りたいと考えている。

次年度の方針については、積極的に事業に参加したい等、ポジティブな意見が多く出され、構成員からの賛同が得られたことが確認できた。

### 【中部環境事務所閉会挨拶：猪岡環境対策課長】

- ・ 多くの貴重なご意見をいただき、今後の方向性について概ね賛同いただけたと思う。
- ・ 自然生態系への影響分科会及び流域圏での水資源管理分科会の5年間を通じて、一定

の成果を上げることができたと感じる。

- ・ 開会挨拶の際に、世界的な気候変動の影響や気候危機の顕在化、中部地域における今後の展開についてお話しした。事務局からの説明にあったが、皆様のご意見やご要望を踏まえ、これまでの実績を活かしながら、広域協議会の構成員の見直しや新たなステークホルダーとの連携を模索していきたい。
- ・ 関係部署間や事業者の連携は今後の適応策の肝になると感じている。また、自治体の担当者から、気軽に事業の相談や協力依頼ができる場がないという声も聞かれているので、共通の課題に取り組む仲間を増やす場として勉強会等を活用いただきたい。

参加者リスト

所属	氏名
座長	
中部大学 中部高等学術研究所 所長・教授	福井 弘道
副座長	
東海学園大学 教育学部 教授/名古屋大学 大学院 環境学研究科 特任教授	杉山 範子
地方公共団体	
富山県 生活環境文化部 環境政策課 主任	鳥山 康成
石川県 生活環境部 カーボンニュートラル推進課 (石川県気候変動適応センター) 主事	佃 美緒
石川県 健康福祉部健康推進課 主幹	柏原 尚子
福井県 エネルギー環境部 環境政策課 主査	川村 恭平
岐阜県 環境生活部 脱炭素社会推進課 主事	石橋 采己
愛知県 環境局 地球温暖化対策課 主事	中瀬 未来
愛知県 環境局 地球温暖化対策課 技師	飯島 吉貴
愛知県 環境局 環境政策部 自然環境課 野生生物・鳥獣グループ 主任	金子 大樹
三重県 環境生活部 環境共生局 地球温暖化対策課 主任	井上 貴一朗
名古屋市 環境局 脱炭素社会推進課 主事	岩垂 利法
黒部市 市民環境課 課長	吉田 雅之
黒部市 市民環境課 係長	富川 篤
立山町 企画政策課 主事	前里 樹
加賀市 産業振興部 環境課 課長	津原 孝佳
宝達志水町 環境安全課 主任	山本 貴博
岐阜市 環境部 脱炭素社会推進課 係長	児島 泰輔
豊橋市 環境部 ゼロカーボンシティ推進課 主幹	大塚 英之
岡崎市 環境部 ゼロカーボンシティ推進課 主査	増澤 趣里
刈谷市 環境推進課 主事	大野 歩果
豊田市 環境政策課 担当長	三俣 淳
豊田市 環境政策課 主事	熊谷 望実
安城市 環境部 環境都市推進課 カーボンニュートラル推進室 主事	狭間 世丈
みよし市 経営企画部 企画政策課 ゼロカーボン推進室 主任主査	福上 慎吾
長久手市 くらし文化部 環境課 主事	駒木根 円
四日市市 環境部 環境政策課 主事	西村 健
富山県環境科学センター (富山県気候変動適応センター) 課長	日吉 真一郎

富山県環境科学センター(富山県気候変動適応センター)主任研究員	松本 拓朗
長野県環境保全研究所 (信州気候変動適応センター)主任研究員	浜田 崇
愛知県環境調査センター (愛知県気候変動適応センター)部長	澤田 和孝
愛知県環境調査センター (愛知県気候変動適応センター)技師	勝山 滉平
三重県気候変動適応センター 専門監	三村 和義
三重県気候変動適応センター 事務局員	浅野 真奈美
農林水産省	
関東農政局 生産部 生産技術環境課 課長補佐	塩田 法矢
関東農政局 生産部 生産技術環境課 地球温暖化対策係	松下 次郎
北陸農政局 生産部 生産技術環境課 農政調整官	川上 久美子
北陸農政局 生産部 生産技術環境課 課長補佐	笠川 重安
東海農政局 生産部 生産技術環境課 係長	白藤 翔平
中部森林管理局 計画保全部 計画課 課長補佐	原田 直樹
国土交通省	
関東地方整備局 企画部 企画課 課長補佐	高野 忠志
中部地方整備局 企画部 企画課 建設専門官	日比野 修
近畿地方整備局 企画部 企画課 課長補佐	川内 嘉起
近畿地方整備局 企画部 広域計画課 課長	大國 喜郎
近畿地方整備局 企画部 広域計画課 係員	女鹿田 哲也
北陸信越運輸局 交通政策部 環境・物流課 課長補佐	石田 亮太郎
気象庁	
東京管区气象台 気象防災部 地域防災推進課 地球温暖化情報官	中村 理恵
アドバイザー・有識者	
東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授	香坂 玲
九州大学 大学院芸術工学研究院 准教授	高取 千佳
名古屋大学 大学院工学研究科 准教授	中村 晋一郎
信州大学 教育学部附属志賀自然教育研究施設 准教授	水谷 瑞希
国立環境研究所	
国立研究科学法人 国立環境研究所 気候変動適応センター 気候変動適応専門員	川畑 隆常
環境再生保全機構	
独立行政法人環境再生保全機構 熱中症対策部地域熱中症対策 課長	佐古 勇策
●その他の関係者	
愛知県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長	清本 三郎

愛知県地球温暖化防止活動推進センター	岩月 輝希
環境省	
地球環境局 総務課 気候変動科学・適応室 室長	羽井佐 幸宏
地球環境局 総務課 気候変動科学・適応室 環境専門調査員	北村 大樹
地球環境局 総務課 気候変動科学・適応室 環境専門調査員	梅澤 正壽
環境保健部 企画課 熱中症対策室 係長	安藤 周平
環境保健部 企画課 熱中症対策室 環境専門調査員	横山 智
●傍聴	
農林水産省	
農産局 農業環境対策課 地球温暖化対策推進班 課長補佐	天野 裕勉
農産局 農業環境対策課 地球温暖化対策推進班 係員	福田 祐人
地方公共団体	
魚津市 生部生活環境課 課長	小林 孝仁
魚津市 生部生活環境課 会計年度任用職員	足立 輝
長野市 環境部 環境保全温暖化対策課 主事	北村 優里花
一宮市 環境部 環境政策課 主査	木全 智哉
尾張旭市 市民生活部 環境課 主事	西尾 亜弥
幸田町 環境経済部 環境課 担当課長	本田 和広
幸田町 環境経済部 環境課 主事	田邊 稔人
田原市 市民環境部 環境政策課 主任	吉田 竜太郎
豊橋市 保健所 保健医療企画課 専任主査	渡邊 美紀
朝日町 みんなで未来！課 主事	水島 圭亮
伊賀市 生活環境課 係長	谷岡 範政
伊賀市 生活環境課 主任	庭本 啓都
伊勢市 環境生活部 環境課 主幹	角谷 晃
伊勢市 環境生活部 環境課 職員	村田 雄紀
亀山市 環境課環境創造G 主幹兼GL	近藤 美文
亀山市 環境課環境創造G 主幹	野田 寛生
熊野市 環境対策課 企画管理係長	濱田 直行
津市 環境政策課 主査	松下 善信
御浜町 健康福祉課 保健師	更谷 真
四日市市 健康づくり課 係長	水谷 真美
事業者等	
アート金属工業株式会社 代表取締役社長	三城 伸五
アート金属工業株式会社 執行幹部	長田 英孝

アート金属工業株式会社 経営企画部 部長	井出 隆宏
アート金属工業株式会社 経営企画部 主査	中曽根 英明
●事務局	
環境省	
中部地方環境事務所 所長	小森 繁
中部地方環境事務所 環境対策課 課長	猪岡 貴光
中部地方環境事務所 環境対策課 課長補佐	小倉 正恒
中部地方環境事務所 環境対策課 地域気候変動適応専門官	大庭 みゆき
中部地方環境事務所 環境対策課 環境影響審査調査官	山内 正照
中部地方環境事務所 環境対策課 環境影響調査官	小林 隆道
中部地方環境事務所 環境対策課 主査	滝藤 由貴
地域事業受託事業者	
株式会社地域計画建築研究所（アルパック） 上席特別研究員	畑中 直樹
株式会社地域計画建築研究所（アルパック） サステナビリティマネジメントグループ チームマネージャー	中川 貴美子
株式会社地域計画建築研究所（アルパック） サステナビリティマネジメントグループ 研究員	藤田 太裕
株式会社地域計画建築研究所（アルパック） 九州事務所／（株）よかネット執行役員・主幹研究員	櫻井 恵介
株式会社地域計画建築研究所（アルパック） 九州事務所／（株）よかネット研究員	益戸 亮平

以上